

ラボの世界

THE WORLD OF LABO

- 01 10代とともに ～誤解があたりまえの世界で
- 04 2023-2024 ニュージーランド青少年受入れ
- 07 ラボ・インターン活躍中！
- 09 第36期ラボ高校留学 MONTHLY REPORT
- 10 東京言語研究所 公開講座 ～この一文をどう訳す
2024夏の受入れ家庭募集
- 11 Go Ahead! ～山梨県・石原啓晶氏
Information



かんなべウインターキャンプで、
ニュージーランドユースといっしょに HAKA を踊る。

10代とともに

松井智子

Tomoko Matsui

認知科学者。早稲田大学教育学部英語英文学科卒。1988年ロンドン大学ユニバーシティカレッジ文学部英文科修士課程修了、1995年同大学文学部言語学科博士課程修了(言語学博士)。専門は認知科学、語用論。著書に『子どものうそ、大人の皮肉—ことばのオモテとウラがわかるには』(岩波書店)ほか。



誤解が あたりまえの 世界で

コミュニケーションはかんたんではない

中学生の頃から読書が好きでした。まわりの人とコミュニケーションをとるのがじょうずではなかったの、時間をかけてことばにする「書く」ことも好きでした。自分の考えを表現するには苦労しましたが、書いてことばにすることで、人に伝えることはできるなど、高校生のときに考えていました。

現在は中央大学文学部の英文科で教えています。言語学の研究をするなかで出会ったイギリス人の夫と結婚し、息子と3人で暮らしています。子育てをするなかで、「コミュニケーションってむずかしいんだな」と思う経験をしてきました。子どもはいろいろなまちがいをするのですが、意外とおとなも同じようなことをしていると感じたので、そのことをまとめた本を出版しました。

まずは、私と当時3歳だった息子との会話をご紹介します。

私「おじいちゃんとおばあちゃんとまた会えるのはうれしいね。いっしょになにしたい？」

息子「レイクタウン(祖父母の家に近い大型ショッピングモール)に行きたい」

言語やコミュニケーションについての研究をされている松井さんですが、10代の頃は「コミュニケーションってむずかしい」「友だちとうまくいかないな」と感じていたそう。しかし、ご自身が苦労されたからこそ、この分野に興味をもち、現在の活動につながっているそうです。松井さんご自身の子育ての事例もまじえて、ことばで伝えることのたいせつさを教えていただきました。

私「おじいちゃんとおばあちゃんにそんなに『買って、買って』っていっちゃいけないのよ」

息子「わかった」

私「そう、わかったならいいよ。『買って、買って』っていっちゃだめだからね」

息子「うん。『買って』っていう。1回だけいう」

私は息子に「おねだりしてはいけない」と伝えたかったのですが、息子は「買って、買って」と2回くり返すことがだめだといわれたと思ったんです。たしかに私のいったことはそういう意味にもとれるなど、あとで気がつきましたが、私はそんな発想はもっていませんでした。これは子どもの解釈ですが、もしもおとなでこのように解釈する人がいたら、「コミュニケーションがとりにくい人」ということになりますよね？

ふたつのコミュニケーションモデル

コミュニケーションについて専門家が考える際の、ふたつのモデルをご紹介します。ひとつは「コードモデル」。これは、ことばを文字どおり理解していればよいというコミュニケーションモデルです。動物同士で使われていて、「こういう音声を流したら逃げろ」とか、「ここにエサがある」というよう

なコミュニケーションですね。

もうひとつは「推論モデル」です。相手がなにをいいたいのかということ、ことばを手がかりにしながらも、ことばになっていない部分を想像したり、推測したりすることが必要なモデルです。人間同士の会話はこれが必要であてはまります。相手がいったことを聞いて、そのままことばのとおり受けとるのではなく、相手がなにを考えているかを想像、推測して、解釈しようとする……。そんなたいへんな作業を、私たちはやっているんです。

ここで、おとな同士の会話をご紹介します。会社に勤めている男性が、帰りがけに女性に話しかけます。

男性「近くにおいしいワインが飲める店があるんだけど」

これは、ワインのお店を宣伝してるわけはありません。ことばにはしていないけれども、「いっしょに行きませんか？」と誘っているわけです。これに対して女性も返事をするわけですね。

女性「ワイン大好きなんです」

これも、イエスカノーかは、はっきりとっていないんですけど、「行きましょう」ということですね。では、これはいかがですか？

女性「ワイン飲むとすぐ酔っちゃうんです」

これはどう解釈していいか迷う返答です。



10代とともに



「ワインじゃなくて、ほかのものがいい」と提案しているようにもとれるし、やんわりとしたお断りともとることができる。また「酔っちゃうので、そうならめんどうをみてくださいね」というふうにもとれますよね。いずれにしても共通していることは「ことばにしている意図が存在している」ということなんです。これはまさに推測モデルですね。「行きましょう」「行きません」のように、はっきりことばにしている部分を推測しないと成り立たない。こういうことがほとんどの会話で起こっているということなんです。

誤解を避けるために

むずかしいやりとりの連続ですから、誤解が生まれてしまうのは仕方がないとして、どういところで誤解が生まれやすいのかということを知ることが大切です。

原因のひとつは、「話し手の前提と異なる前提を推測してしまう」ことです。「正月はタコがいい」といったときに、この話し手が食べ物のタコが好きだという前提があれば、タコが食べたい可能性が高いし、そうでなければ風揚げの凧である可能性もあるわけですね。つまり、この前提をまちがえてしまうと誤解が生じるわけです。とくに、友だち同士や親子など親しい間柄だと、どうしても「この人はこう考えているだろう」と聞き手が誤った推論をしてしまうことが多いです。自分の頭の中を、相手の頭の中に当てはめてしまう傾向があるということです。



誤解したり、されたりして困ったときには、このことを思い浮かべていただきたいです。

障がいと外国語

コミュニケーションの障がいについてお話

しします。自閉スペクトラム症の方にとって、イディオムは理解するのがとてもむずかしいんです。「足が棒になる」「寝耳に水」ということばは、比喩だとわかりますよね？しかし、自閉スペクトラム症の方は、文字どおりの解釈をしてしまうという特徴があります。また、どうしてもそのイメージが視覚的にうかんでしまうそうです。なので、「寝耳に水」と聞いたとき、右図のような状況が思いうかんでしまうということなんです。



コミュニケーションの障がいというのは、「社会的（語用論的）コミュニケーション障害」という名称がついています。これはあくまで言語の「使い方の障がい」であって、言語そのものの障がいではないんです。言語を獲得しているんだけど、それをうまく使いこなせないために対人関係がうまくいかない。

しかし、これらの障がいは、じつは外国語のコミュニケーションのなかでも起きるんです。みなさんが日本語で会話する際には、複雑な推論を無意識で行なっていると思うのですが、なれない英語で会話するときには、相手の発音に集中して「ちゃんと聞けるか」とか、「いまの文法はどういう文法だったか」みたいなことを考えながら、「いまのことばの意味、何だっけな」というように考えますよね。ことばの意味や構造に意識がむいてしまい、音声とか顔の表情にあまり意識がむかないので、ことばになっていない部分を読みとることができないんです。なので、ことばどおりの解釈をすることになってしまいます。しかし慣れてくると、こういうこともむりなくできるようになり、英語のジョークや皮肉がわかった

りししますね。

< Q & A >

Q) 「対話」と「会話」の違いは何ですか？

対話は、事前に決められたゴールや、目的があることが多いですね。一方、会話はゴールも目的もわかりにくい。参加する人によっても行きつく先は変わります。「じゃあ何のために会話するの？」と思いますよね。じつは多くの場合、会話の参加者というのは、相手と共感したいとか、相手に理解してもらいたいというような欲求があるんです。「いい天気ですね」なんていうのは、いわなくてもわかることなんです。そのように話すことによって、穏やかな関係が確認できるわけです。会話をするだけで、幸福感も得られるんです。

ただ、会話の内容によっては、自分がいやな気持ちになったり、相手をいやな気持ちにさせてしまったりということもあります。しかし、だからといって「会話をしなくてもいい」ということにはならないんです。じつは、私たちがいやな気持ちになったとき、そのことをことばにしなかったときよりも、ことばにしたときのほうがストレスのレベルが低くなるのがわかっています。なので、だいたいは起こったことを「いう」ということなんです。会話に「プラスなこと」をもとめることが多いのですが、じつは「マイナスな部分を吸収する」役割もあるのだと思います。

Q) アイコンタクトは重要ですか？

アイコンタクトは、相手に対して興味があるということを知らせることができるものです。とくに会話をはじめるときに有効ですね。それ以外にも、相手に安心感を与えたり、自分に自信があるという印象を与えることもあります。

欧米人に比べると、日本人はアイコンタクトをあまりしませんよね？ その理由のひとつには、日本人の顔がベツタンコで目のまわ

10代とともに



りの筋肉がうまく使えないということがあるんです。欧米人の顔は、この筋肉をすくすくうまく使えるので、目で感情を伝えやすいんです。

逆に日本人は、声色で相手の感情を理解するのにとても長けています。どの国の言語でも、語尾のイントネーションが上がると自信がないという表現になるんです。そのことを、たいていの国の子どもたちは6歳くらいで理解するんですが、日本人は2歳でわかってしまうんです。

日本人が声色で変化をつけていることを、海外の国々ではアイコンタクトで伝えているので、海外に行く際にはアイコンタクトを意識するといいですね。

Q) どんなきっかけでいまのお仕事に？

英語の先生になりたくて大学に入ったのですが、そこで言語学に出会いました。それまでは文学しかないと考えていたのですが、ことばそのものを研究する分野があるというこ

とがわかり、興味をもちました。自分がコミュニケーションのことで苦労していたので、そのむずかしさを科学で説明できるなら、それはすばらしいなと思ったんです。この世界に入ってみると、まわりの研究者も、私と同じようにコミュニケーションに対して苦手意識がある方が多かったです。

10代のわかものへのメッセージ

自分を理解してもらい、他者を理解することがたいせつです。みなさんは、このことをラボで学んでいるのだと思います。地球規模の問題について、日本が主体的に関わっていくためにも、ラボで活動をしているみなさんの活躍を期待しています。

本日、みなさんのお話をうかがって、日々のコミュニケーションで困ったり、悩んだりしているということがわかりました。「悩んでいる」と自覚していることがとてもたいせつで、みなさんはすでにそこには立っているのです、そのことを材料にして考える、比較す

るということを重ねていただきたいなと思います。いま、よく聞くことばに「言語化」があります。ビジネスでもそうですし、勉強やコミュニケーションにおいても、目に見えない考えをことばにすることはひじょうにだいじだといわれています。とくに異文化間でのやりとりで「ことばにしらない部分をわかってもらう」ことはありえないと思っていただこうがいいです。みなさんがこれから高校、大学、社会へと進んでいくなかでも、「言語化」するくせをつけていただきたいなと思います。

言語というのは、感情があつてこそというだけではなく、言語があるから感情がわかるという側面もあるんです。なので、言語力をつけることによって、私たちは感情の理解や表現を豊かにすることができるんです。みなさんはラボでそういう活動をされていると思いますが、さらに極めていただきたいなと思います。

(文責：編集部)

インタビューを終えて

【取材協力】兵庫県のラボ・パーティ
村井友美P, 吹原幾代P, 福田智美P, 小合寛美P

村井友美パーティ

●村井優太(高2) 伝えたいものことばでも、意図した意味で伝わらないことは、どんなに親しい間柄でも起こりうる。それはあたりまえな事実だが、松井先生のお話を聞いて、それをいちばんに感じた。国籍、性別、年齢、家族などを問わない多様な視点から、コミュニケーションのたいせつさ、奥深さを教わり、なににおいても生かせるものを得た。また、英語で話をする際の心のもち方を聞くことができてよかった。声を大きく、姿勢を正して話すこと。単語力や文法力と同等に、もしくはそれ以上にたいせつなことだと思う。

吹原幾代パーティ

●村田菜々子(大学生年代) 大学生になって、大人数で交流する機会が増えるなかで、楽しいときも

あれば、反応に困るときや、なにを話せばいいのかわからなくなる時があります。松井先生が「私たちはコミュニケーションにおいてつねに推測と試みを行なっている」とおっしゃっていて、だからコミュニケーションをとることが困難なときがあるんだと納得しました。相手を理解するための相手への興味と共感を忘れずにもっとコミュニケーションを楽しもうと思います！

福田智美パーティ

●中野心結(中2)「コミュニケーション障がい」ということばは聞いたことがあったけど、話し手のことばの裏にある思考・感情・態度を読みとるのがむずかしいということは知らなかったの、これから人と会話をしていくなかで、だれもがわかることばづかいをし

ようと思いました。いちばんに残ったことは「あれ」「これ」のことばを確実に表わしてなかったりすると意味を理解してもらいにくくなるということです。●中野心緒(中3) コミュニケーションについて中学生になってからモヤモヤすることが増えたので、話を聞けてよかったです。私のパーティの3~4歳の子たちとどうやったらうまくコミュニケーションがとれるのがわかりました。話を聞いていちばんに残ったことは、親しい間柄であればあるほど誤解が生じる可能性が高いということです。自分の考えていることを友だちは知らないんだということがわかりました。●大田美織(高2) 質問できる機会があり、私は「対話と会話」の違いやそれぞれのよさを聞きました。私は、対話は話のテーマにあった結論をだす、会話は結論をかならずだす必要がなく自由に変化していけるものだと考えました。先生は私の意見を肯定してくださったうえで、会話には話をするによって共感を得たりストレス発散になるなどのこともふくんでいると教えてくださいまし

た。目的だけではなく、会話の効果などは考えていなかったのでも勉強になりました。●今田稜太郎(大学生年代) 毎日行っている会話ですが、自分が思っていることと相手が違うこととまでは限らない。どんなことでも言語化する必要があるというあたりまえだが忘れてしまいがちなことについて再確認することができました。年齢によって伝えられる量が変化するのは当然のことであり、さまざまな年齢の子がいるラボだからこそその学びをしていきたいなと思いました。

小合寛美パーティ

●小合笑美子(高2) 私は先生に、日本人は外国人に比べてアイコンタクトが少ないように感じてその理由を質問した。すると、日本人は顔の凹凸があまりなくて目や眉で感情を表現することがむずかしく、目からよりも声の調子などで感情を読みとるからだそう。とても意外な発見でおもしろいと思った。

【取材日】2024年1月

2023-2024 ラボ国際交流 ニュージーランド 青少年受入れ

2023年12月15日～2024年1月6日、4年ぶりにニュージーランドから43名の青少年が来日。来日者と受入れ家庭、それぞれどのような体験をしたのかをご紹介します。

Letters from Aotearoa
白く長い雲がたなびく土地から



About New Zealand

ニュージーランドは北島と南島に分かれています。
2023年夏にラボ会員がホームステイした北島だけでなく、南島からも来日しました。



South Island

イギリス風の建物やイギリス料理の店が並び、イギリス文化を強く感じられる町があります。
手つかずの大自然が広がっています。



North Island

首都のWellingtonや、ラボ会員がホームステイしたTauranga, Katikatiがあります。
ニュージーランドの人口約75%が北島に住んでいます。



How was your homestay?

- My host family was lovely and considerate. They treated me like their own family. It's all thanks to them that I had the best time during my homestay experience. I loved getting to experience everyday life with such kind and caring people!
- The best part of my trip is spending time with my host family. We shared so much fun and love! I also enjoyed eating all the delicious Japanese food-Ramen, Bento, Sushi, Nabe etc.



How were Labo Activities?

- Meeting people of all different ages and cultures was fun! It was nice to talk and meet new people, sharing my own culture with them.
- Everything was positive. The only minor negative point was sometimes feeling out of place during activities (often at camp) due to a lack of understanding.

What surprised us about Japan?

- Baths before dinner
- Wearing socks all the time
- Bathing every day
- How religious people are. A lot of shrines, big and small and with so many Kami.





ぼくにとってニュージーランドは特別な国

秋田将来 (中2 / 愛知県・本多春巳P)

楽しかった思い出

Adi と過ごした3週間はにぎやかで楽しかった。いっしょにゲームをしたり、話をしたり、オセロをしたりして楽しんでいたら、しぜんとコミュニケーションがとれて、気がついたらなかよくなっていた。4日間いっしょに中学校に通ったら、Adi はクラスの仲間ともなかよくなった。冬休みにみんなが遊びに来てくれて、Adi がとても楽しそうだったから、ぼくもうれしかった。ピザパーティをしたり、除夜の鐘をつきに行ったり、いとこたちとたこ焼きを焼いて食べたことも楽しかった。



食べものを通して交流

Adi が特製の Pasta を作ってくれたことがうれしかった。とてもおいしかった。お礼にぼくがホットサンドを朝ごはんに作ったら、喜んで食べてくれた。

Adi は何でもおいしそうに食べていた。ぼくが嫌いな納豆もおいしそうに食べていたし、夕食後にほぼ毎回おじいちゃんが「食べるか?」と出すみかんでも、「おいしい!」と食べていた。おじいちゃんもうれしそうだったが、その国の食べ物を食べることは、なかよくなるきっかけづくりになると感じた。



自分の国際交流との違い

2023年夏、ぼくがニュージーランド交流に参加したときは、自分が道を切りひらいていく感じだったけれど、今回は Adi が道を切りひらいていく感じだった。積極的に話しかけたり、ごはんをたくさん食べたり、おかわりもするところは、ぼくといっしょだなと思った。

Adi が帰った後、Adi の両親とビデオ通話ができた。とてもすてきな両親だった。ぼくにとってニュージーランドはさらに特別な国になった。いつかかならずニュージーランドに行って、夏のホストファミリー、そして Adi と家族に会いに行くことが、ぼくのいまの夢です。

家族より

心根がやさしく、日本が大好きでいろんなことに前向きに取りくむ Adi。なにに対してもしリスペクトをもつ彼の姿勢がみんなにも伝わり、私たち家族はもちろんのこと、多くの人たちから愛されたのではないかと感じました。この出会いに感謝して、新しい家族とのつながり、絆をたいせつにしていきたいと思います。



Adi's Thoughts

My host family was incredibly welcoming, and I intend to maintain contact for the foreseeable future. I made dinner with my host mother daily. I enjoyed getting to know the kids in my Labo Party, as well as my extended host family who lived nearby. I saw castles, made friends, and enjoyed my time in Japan. I wish I could have had more time with hosts. Also, when I visited school it was towards the year-end, so it was difficult to build relationships in class.



いっしょにいるだけで楽しい

筑濱心奏 (中2 / 長崎県・国分浩子P)

楽しかった思い出

私は Ruby といっしょにいるだけで、ほんとうにとっても楽しかったです。1日目の夜からいっしょに寝ることで、何でもいいあえるような関係になりました。Ruby は好奇心旺盛で、何事もいっしょに楽しみました。好きなメイクや洋服の話をしたり、お互いにメイクをしあったり、洋服を選びあったりしました。Ruby はとてもかわいくてセンスがあって、あこがれの存在です。学校にもいっしょに行きました。3日間だけだったのに、先輩たちともなかよくなってとても驚きました。放課後には友だちといっしょに買い物に行って、うどんをみんなで食べました。



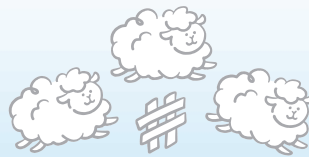
びっくりしたり、戸惑ったり

Ruby は寝るときに半そでですべて寝ていてとてもびっくりしました。外に出るときも上着を着なくてとても心配しました。Ruby が体調をくずして部屋から出てこなかったときは、とても心配しました。私が部屋にいて「だいじょうぶ?」と聞くと笑顔で「だいじょうぶ!」と伝えてくれました。どんなときでも笑顔をたやさない姿にとっても感動しました。



こうして伝えたよ

私は、知っている単語をつなぎあわせて会話をしました。完璧な英語ではなくていいんだな、と感じました。そして、Ruby も簡単な英語をつかしながら話してくれました。それでもわからないときはことばだけではなく、表情やジェスチャーをつかしながらコミュニケーションをとりました。



今回あらためて娘のもっている「相手を思いやる気持ち、寄りそえるやさしさ」にふれる日々でした。この出会いをくださったチューター、Ruby、Ruby の家族に感謝しています。そしてはじめから私たち家族、Ruby を支えてくれた娘に、たくさんの「ありがとう」をおくりたいです。

家族より



Ruby's Thoughts

I LOVED my homestay. I'm grateful for the Labo Parties as they were a great opportunity to meet people and feel apart of something. Sometimes they felt a bit confusing since I didn't understand what people were saying, but homestay sister did an amazing job of translating. I want them to know how much they mean to me ♥ I feel like I couldn't have expressed it well in Japanese. I love them.



ラボ・インターン 活躍中！

長野 くらひめキャンプ

Olga Tuttle アメリカ・オレゴン州



2023 年秋から来日しているラボ・インターンのふたり。冬休みに開催されたラボ・ウインターキャンプでは、Olga が長野で、Savannah は兵庫で大活躍しました！ そのようすをご紹介します。



Opening Ceremony



Morning Activity

English Special Lodge
Original Program



英語で生活をする特別なグループむけに行なわれたプログラム。
ごきでも Olga は参加者にまじって英語のゲームを楽しみ、アドバイスをしていました。

2日目の朝。『かにむかし』のダンスを、Olga もノリノリで踊りました！



International Youth Program



27名のニュージーランドユースが、HAKA を教えてくれました！
ラボ会員からはソーラン節を紹介。Olga はキャンプ中のユースのケアや、ミーティングを担当してくれました。



兵庫 かなべキャンプ

Savannah Yon アメリカ・アラスカ州



参加者への英語での
インフォメーションを担当!

Opening Ceremony



Self - Introduction

英語で生活をする「Kannabe Camp English Group」の参加者にむけて、Savannahが英語で自己紹介をしました。みんな熱心に聞き、英語で質問もしました。



International Youth Program



ニュージーランドユースが、2日目の夜に伝統的な歌を、3日目のキャンプファイアではHAKAを披露してくれました。Savannahもいっしょに考え、とてもすてきな発表になりました。ホームシックになったユースにやさしく寄りそう姿が印象的でした。



第36期ラボ高校留学

MONTHLY REPORT

8月からスタートした留学生活。アメリカ・カナダで15人の留学生ががんばっています！12月までの半年間、彼らはどのような留学生活を送っていたのか？MONTHLY REPORTから紹介します。

WHAT'S NEW?

8月~12月のMONTHLY REPORTより抜粋

※それぞれの留学生の文をそのまま掲載しています。

August

- I want to take Spanish class but it will be hard because I will learn it in English.
- Participate in first volunteer.
- I couldn't catch host family's conversation.
- I talked to many friends! But I was so nervous that I couldn't talk a lot.
- I am having fun. I will make more friends next month.
- I played soccer on my school team.
- On the first day of school, I hardly understood what the teachers said.

September

- I joined home studying club and cooking club. It is very fun because I can talk with many others grades students.
- Some classes are still hard and it takes me long time to do homework but everyone helps me.
- I spent homecoming week. I dressed up interesting clothes and danced with friends!
- Nowadays I am getting used to live here and I am staying really comfortable. I should tell that to my host family.
- ホストファミリーの次男に英語がへただから話さないといわれ、絶賛へこみ中
- 日本に比べて授業の時間が長い、聞きのがさないように集中するからとくに問題ない

Q. 楽しい・よくわかる授業はなんですか？

A. Physics / Math / Band / History / Dance / Guitar / Food and nutrition / Stage Crew / Forensics / Art / Calculus / Body Dev / Web Dev / Musical theatre / Algebra / Choir

Q. むずかしい・たいへんな授業はなんですか？

A. English / Video production / Language Art / US History / Statistic / Calculus

October

- I miss my friends in Japan so much. I want to be closer with my friends here.
- Ask friends to go to Homecoming with me.
- 課題とテストが重なったり、毎週バンドのコンテストがあって、睡眠時間が足りなかった
- バスケのトライアウトに合格し、代表チームに入ることができた
- 笑顔でいることを心がけたらいろいろな人が話しかけてくれた
- ここで勉強しているともっと勉強したいと思えるし、切磋琢磨できるのがなにより楽しい
- (ほかの) 日本人留学生とも全部英語ではなそうと約束できた

November

- ルームメイトともたくさん話せるようになってきたし、ホストマザーのお手伝いをしたり、ふたりでお買い物に行ったりして充実している
- たくさんの人に支えられて生活していることを痛感した1か月だった。また、City concert bandのオーディションにも合格して、いまはコンサートにむけて練習している
- 先月よりもクラスの子たちに話しかける機会が増やせたと感じるし、話したいと思うことも増えた
- スマホを触っている時間が多いで、勉強にあてたい

December

- 授業が新しくなってクラスメイトもかわったので、新しい友だちをつくりたい
- ホストファミリーが「この子を受け入れてよかった」と思ってくれているのか不安で怖くなり、ホームシックになった。この状態を抜けだそうと努力してよくなった
- I did many household chores and homework before the Christmas break.
- I had a good holiday, a wonderful Christmas, and a great new year's day. I didn't speak fast. But I absolutely spoke a lot. I'm sure my English is getting better. But it's not perfect. I want to talk more and I want to learn a lot.
- (英語が) 友だちからだいぶん聞きやすくなったといわれて少しずつ成長を感じた





この一文をどう訳す

～翻訳の実践から規範へ

柴田元幸

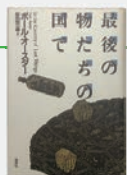
米学者・東京大学名誉教授・翻訳家。『生半可な學者』で講談社エッセイ賞、『アメリカン・ナルシス』でサントリー学芸賞、『メイスン&ディクスン』（トマス・ピンチオン著）で日本翻訳文化賞、翻訳の業績により早稲田大学坪内逍遙大賞を受賞。アメリカ現代文学を精力的に翻訳するほか著書多数、また文芸誌「MONKEY」の責任編集も務める。

今回で3回目となる柴田元幸氏の公開講座は、対面とオンライン併用で開催され、日本のみならず、アメリカ、カナダ、オランダ、フランス、ドイツ、モザンビークなど世界中から100名を超す参加がありました。参加者から寄せられた具体的な質問に答えながら、翻訳とはいかなるプロセスなのかを提示することをめざし、翻訳についての考え方、受講者からの質問、翻訳作業の実演、の3テーマで展開しました。

●翻訳について

欧米の翻訳理論では、翻訳者の声を前面にだすという考えが強いが、柴田氏は翻訳者は自分を消すところからいい翻訳ができると考えています。その前提にたつたうえで翻訳する際に意識するのが、英語と日本語における文法やことばの法則など「ルール」の違いとこのことです。

例 "In the Country the Last Things" 「最後の物たちの国で」



日本語のルールでは「物」には複数系の「たち」はつけない。しかし、一つひとつ物がなくなっているという英語の意味を訳すには「最後の物たち」のほうが適切。翻訳は英語と日本語どちらの特徴も考える必要があり、翻訳者はしばしば両者の板挟みになることがある。

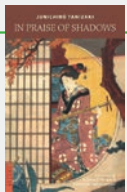
●受講者からの質問に答えて

谷崎潤一郎『陰翳礼讃』の英訳を例に、日本語のニュアンスをそこなわずに、英語に翻訳するときに気をつけることを解説しました。

- ・日本語＝大和言葉＋漢語
- ・英語＝アングロサクソン（英語の土着的なことば）＋ラテン語、フランス語など

大和言葉とアングロサクソンのことばはシンプルなことを、漢語やラテン語は抽象的なむずかしいことを表現するときに使われるので、シンプルなことばは同じようにシンプルなことばで訳すのが原則です。

例 "get (アングロサクソンのことば)" を訳すのに、「取る (大和言葉)」と「取得 (漢語)」では少し意味合いが異なる。一方で、"acquire" や "obtain" ならば「取得」のほうが合う。



大和言葉に由来する「うすぐらい」や「ほんのり」は、できるだけシンプルな英語を選んで "The dim light" "the faint glow" と訳し、動詞と前置詞の反復でリズムをつけることで原文のニュアンスを表現していく。

●実際の翻訳作業

柴田氏の翻訳作品をもとに、なぜそのように訳したか、下訳からどのように変えたかなどを実演紹介していただきました。

After Baumgartner dreams that dream, something begins to change in him. He is fully aware that the disconnected telephone did not ring, that he did not hear Anna's voice that the dead do not go on living in a state of conscious non-existence, and yet however unren the contents of the dream might have been, he experienced them as a real experience, and the things he lived through in his sleep that night have not vanished from his thoughts as most dreams do.

Paul Auster, *Baumgartner* (2023), Ch. 3



西村義樹氏（東京大学）、平沢慎也氏（慶應義塾大学）からもコメント・質問をいただきながら、議論する時間を設けました



（文責：編集部）

2024 ラボ国際交流 夏の受入れ家庭募集

この夏、日本にいながらできる国際交流を体験してみませんか？

※日程など詳細は「受入れ家庭募集要項」をご覧ください

●北米青少年日本語研修生受入れ（首都圏のみ）

期間：6/14(金)～7/12(金)
対象：幼児～大学生年代のラボ会員家庭

●北米青少年受入れ

期間：7/12(金)～8/8(木)
対象：新中学1年生以上のラボ会員家庭

●ラングブリッジ日本語研修生受入れ（首都圏のみ）

期間：7/13(土)～8/4(日)
対象：幼児～大学生年代のラボ会員家庭

●韓国青少年受入れ（関西方面のみ）

期間：8/3(土)～8/12(日)
対象：新小学校5年生以上のラボ会員家庭



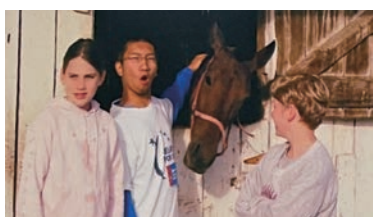
石原啓晶
国家公務員

「楽しい」はつくれる

「この高校に来た日本人はレスリングをやることになっている」。

ロッカーに教科書を片づけているところで、近くのロッカーの生徒に話しかけられた。あからさまなうそだな！ それともこれが気の利いたジョークというやつかな？ そんなことを思いながら、うわの空で受け答えた。いわゆる部活への勧誘だった。

約20年前、米国バージニア州の片田舎にある高校に留学していた。ロッカーで的一幕の頃、私には悩みがあった。いっしょに昼食を食べる友人がいなかったのだ。クラスでうまく周囲に話しかけることができず、友と呼べる人はいなかった。



高校留学時（馬をめでのようす）

冒頭の話に戻る。当時の私にはレスリングは何の関心もない競技だった（レスリング競技者、ファンの皆

さん申し訳ありません）。他方、一晩悩み、この「興味がないスポーツ」をやることにしてみた。最初の頃の練習は吐くほど辛かった。次第に慣れ、ルールを知ることで、ポイントが得られる楽しさを感じられるようになった。友人もでき、学校のなかでさみしさを感じることはなくなった。試合にも出してもらえ、勝利を仲間とともに喜ぶことができるありがたさを感じられた。

簡単にいうと、誘われたことにホイホイとついていったらうまくいった。それだけの話なのだが、「自分で楽しくしようとしないと、楽しくできない」ということを心に留めるようになった。

私は、現在、国家公務員として働いている。正直にいうと、つまらないと思う仕事もたくさんある。そんな時は、どこか楽しめるところはないか、どうしたらおもしろくなるかを考える癖が私にはある。これは、留学で得た経験からついた癖である。

2024年の1月に発生した能登半島地震では、被災地に物資を届ける調整を担当している。体力的にも精神的にもつらくなる瞬間はいくつもあった。



生物多様性条約の会議で発言する筆者

もちろん災害対応を楽しむというものではないが、どうしたらよりよくなるか、より効果的に動くことができるかと自発的に動いて探求するというのは、共通するところだ。

中1でのラボ国際交流による1か月のホームステイや、1年間のラボ高校留学によって英語・海外に対する恐怖心が下がったことも財産だ。就職後も留学制度にチャレンジし、米国の大学院で国際公共政策の修士号を得ることができた。条約交渉や国際会議でも、交渉に食らいついていくことができています。高校留学へ踏み出した一歩が確実にいまの私の歩みにつながっている。

いしはら ひろあき＝経済産業省 商務・サービスグループ 生物化学産業課 生物多様性・生物兵器対策室（山梨県・間瀬えりかパーティ OB）

Information

一般財団法人ラボ国際交流センター

■理事会・評議員会

予算理事会：3月13日⑩

予算評議員会：3月29日⑤

決算理事会：5月23日⑩

決算評議員会：6月11日④

■海外への訪問プログラム

○第37期高校留学生準備合宿

日程：4月27日④～29日⑩⑩

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

○全国国際交流引率者会議

日程：5月18日④～19日⑩

会場：ラボ教育センター 本社（東京都新宿区）

東京言語研究所

■集中講義

日程：3月23日④～24日⑩

講師：秋田喜美（名古屋大学准教授）

演題：オノマトペの言語科学

■春期講座

理論言語学の主要な研究領域を2日間で広く学ぶことができます。

日程：4月13日④～14日⑩

講師：池上嘉彦（東京大学名誉教授）ほか15名

■理論言語学講座

言語学の広い領域について、今年度は入門から上級まで19課目を開講予定です。

日程：5月13日⑩～12月23日⑩

（前期・後期 各10回）

※8月に夏期集中講義あり

■公開講座

○日程：6月8日④

講師：斎藤兆史（東京大学名誉教授）

テーマ：未定

○日程：7月13日④

講師：古田徹也（東京大学准教授）

テーマ：未定

※くわしくはFacebookをご覧ください

Access:

<https://www.facebook.com/tokyogenken>